



富岡地域で研修したJICA野菜栽培員の任国（2005～08年、研修中の研修生も含む）

共同生活で「農村」学ぶ

研修生は農業に環境を
借、燃料、資材や肥料
に乏しい住地の厳しい条
件を想定しながら栽培
に取り組む。だが本格的
な経験がないため、失敗
も多い。白石さんは「最
初は紙でのささきりも種
まきもできない。失敗が
勉強と考える」。

協力隊OBでNPO理
事長の矢島亮二さんら
らの講義を週一回聞き、
情報交換。月例の報告会
で研修内容を発表する。
希望を出して、ここにや
く作り、搾乳、市場見学
などを体験。生協の農家
や専門家と懇話して、知
識を吸収する。



昼食を囲み、研修中の松原さんと
歓談する白石さん、妻の麻利子さん

研修通し交流も
受け入れ先は、研修所
から自転車を通る青年
隊メンバーの野菜農家に
囲まれる。農家は、
受け入れに伴う時間的拘

束や食事提供、研修生へ
の気配りの備前もある。
だが同時に、農家や地
域住民は研修生の間に交
渉も生まれる。白石さん

【又毛】研修は技術補
正研修と呼ばれ、6カ月
間は海外協力隊の全職種
を通じて部長の一つ。業
務を担う青年海外協
力協会（本部・東京）に

方々研修中の松原有希さ
んの2011年組出身にも
よると、受け入れを受け
ることもあるという。相
泊いで夫を販売させ、候
補生を見守る住民もい
る。収穫前に採れた野菜
は、研修生が周辺に配布。
白石さんは「互いに利益
を奪うイメージの
関係が理想」と話す。

富岡富岡の側は野菜
隊員のほか、JICAの
村訪問隊員や、外印人
研修員の研修も受け入れ
ている。コーディネータ
する又毛さんと白石さん
は「夜も寝ないが、こ
の地域を農業、農村の守
りてが守る。農村を学
校にしたい」と話す。

富岡市内の野菜農家で、国際協力
機構（JICA）の青年海外協力隊
候補生が技術研修に励んでいる。連
上国派遣に備えてもカ月間、共同生
活を送りながら、受け入れ先の農家
に分かれて野菜栽培の技術を学ぶ。
若いボランティアの国際貢献の夢を

組織で受け入れ3年目

野菜作りの技術 世界へ

後押しし、地域の農業も活性化しよ
うと、JICA甘菜富岡の青年組織協議
会（青年協）が受け入れ事業に取り
組んで3年目。世界の農の学びやと
して、農家の知恵と技術が伝を渡っ
ている。

（富岡支局 西岡 修）

21人が13カ国に
ナスの定植は深まき
てはため、苗の方向にも
注意して
富岡市上黒島の畑で
JICA青年協メンバーの野
口草之と白石が「JICA
野菜栽培員候補生」寺田
雅彦さんと2011年神奈川県

JICA甘菜
富岡青年協

JICA候補生を指導



野口さん（右）から指導を受ける寺田さん

とを準備で栽培。た
肥作りも試みる。
四月から九月まで野口
さん方で学び、研修記録
を受けた後、ベトナムの
村に赴任する。「農業を
通じたネットワークづく
り」と力強い。

青年協は、研修業務を
受託するNPO法人自然
塾（本部・高崎市）
の仲介で候補生を受け入
れている。今春は寺田さ
んら海外出身の二代の
男女四人、取り組みを始
めた2006年以降の通



報告会で発表する野菜
隊員候補生

夏は、春、林計五期で二
十一人、住地は十三万回
に及ぶ。
きつかけは同NPOが
〇五年、甘菜市内の農家
に依頼し、何れも隊員
の研修。この時の報告会
を開いた青年協会長、
白石さんと白石さん、
市相野田さんが「陣痛す
る農業に新しい風を」と
組織的な取り組みを提
案。JICAから、遊休施設
を生産拠点の研修所に改
修する支援を得て、五戸
五人を受け入れた。